

第5回 薬薬連携の会開催報告書

日時：平成30年6月15日（金）18：30～19：30

場所：日本医科大学武蔵小杉病院C館会議室

参加者数：計30名

- ：日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部…15名
- ：聖マリアンナ医科大学東横病院…3名
- ：コクミン薬局武蔵小杉店…4名
- ：ミキ薬局武蔵小杉店…1名
- ：アイランド薬局小杉店…2名
- ：日本調剤こすぎ薬局…1名
- ：フレンド薬局…1名
- ：薬樹薬局小杉…3名

講演：「プレアボイド報告～新たなステージに向けて～」

演者：日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部 松岡順子先生

司会：日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部 宮田広樹先生

閉会挨拶：日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部 笠原英城先生

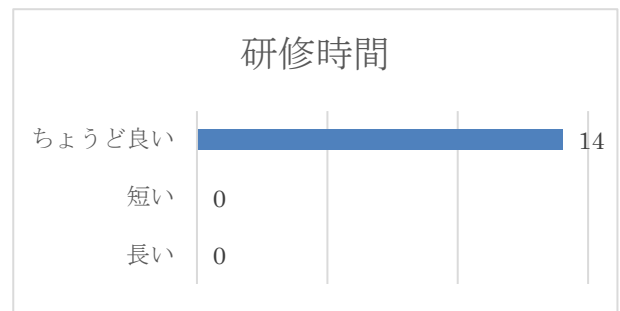
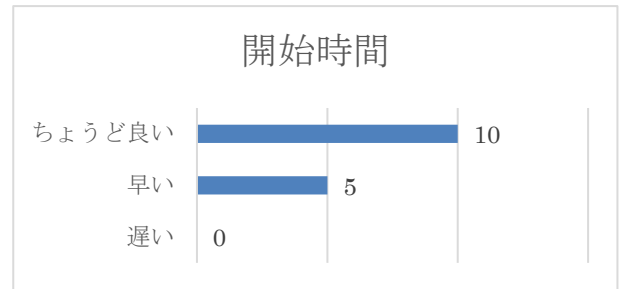
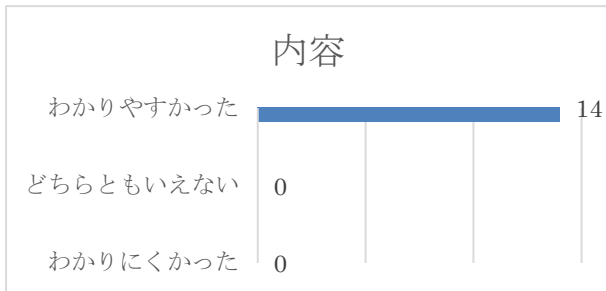
講演に関し以下の質問・発現があった。

- ・病院ではトレーシングレポートのようなシステムの導入は検討しているのか。
残薬調整を含めて疑義照会を病院薬剤部が仲介した方が効率的に行える事例がある。
(回答) 現状は考えていないが、重要なことであるので今後検討する
- ・保険薬局では、今回の講演のような立派なことはできていない。疑義照会はたくさんやっている。緑内障患者への抗コリン薬投与回避程度の事象ならある。
- ・保険薬局では、プレアボイドを報告する体制が構築できていない。
- ・ヒアリハット報告にプレアボイドを報告するようになっているが、報告数が非常に多く、現在はシステムがパンクしている状態。
- ・プレアボイドとヒアリハットは違う。
- ・プレアボイド報告は、薬剤師の義務である。
- ・現状、保険薬局ではプレアボイド報告に対し混乱が起きている。
- ・今後、プレアボイドに対する正式な見解が日本薬剤師会からでるだろう。
- ・これからは、病院と保険薬局とが連携して、充実したプレアボイド報告が出来るようになっていけばいいと思う。

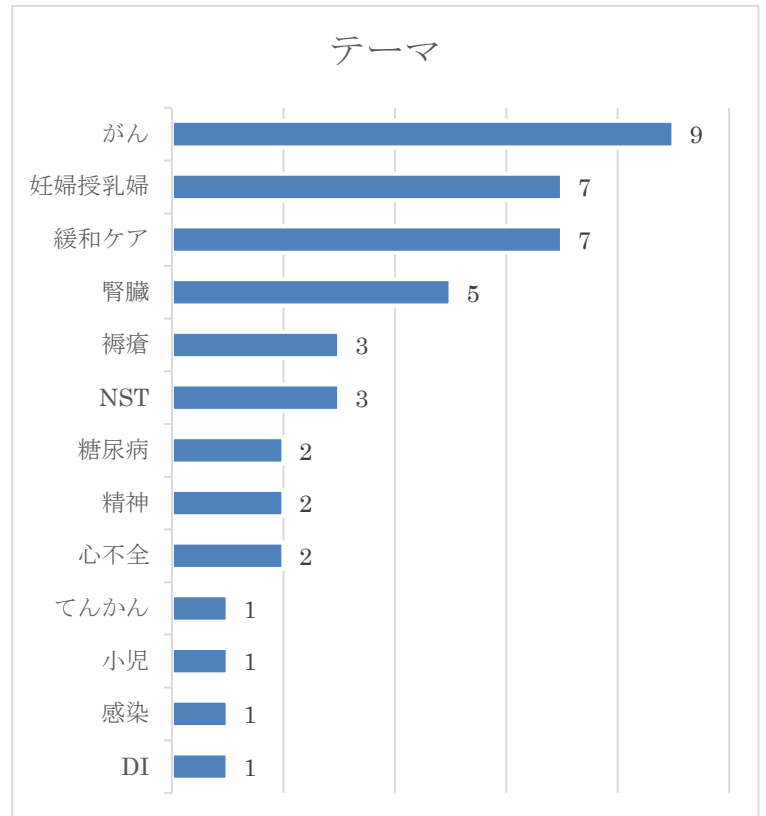
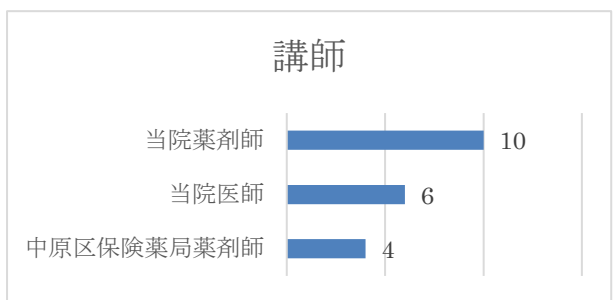
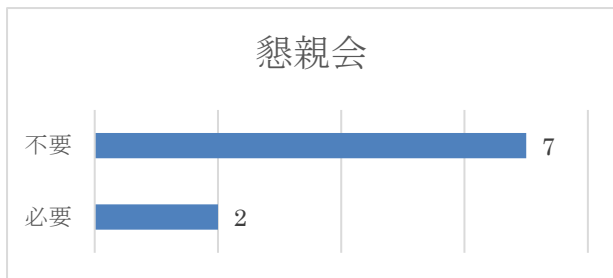
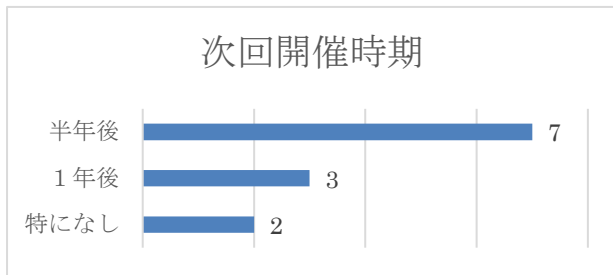
会に際し、参加者（当院薬剤部を除く）に対しアンケートを行い、15名より回答があった。

以下、アンケート内容と結果を示す。

【本日の会について】



【次回以降の開催について】



【フリーコメント欄】

- ・プレアボイドは、血液検査などの情報があるものであるので、病院のようなプレアボイドは不可能だと思います。
- ・難しいテーマだけでなく、気軽なテーマもあっていいのでは。
- ・レジメがあった方がいい。